

1枚目のドミノを倒せ！

～1.5人で達成する地方創生～

宝塚市企画経営部政策推進担当

兵庫県宝塚市について



人口

約22万5千人

面積

約102km²

東西約13km、南北約21kmの南北に細長い形状。市の中央には武庫川が流れ、扇状地を形成している。

住宅地が広がる南部市街地に大半の人口が集中する一方、市域面積の約2/3を占める北部地域は、北摂の山々が連なる起伏に富んだ地形で、穏やかな田園風景が広がる。



宝塚市の成り立ち

明治43年（1910年）に阪急電鉄、宝塚歌劇団などの創始者、
小林一三氏による箕面有馬電気軌道が宝塚・大阪間を直結

鉄道開通後、沿線の住宅開発

マイホーム生活の広がり（典型的なベッドタウンとして発展）

昭和29年（1954年）宝塚市発足当時は約4万人の人口

2年で約4倍に増加

昭和50年（1975年）16万人を突破

元祖地方創生！

ときめく日々が
たからもの。

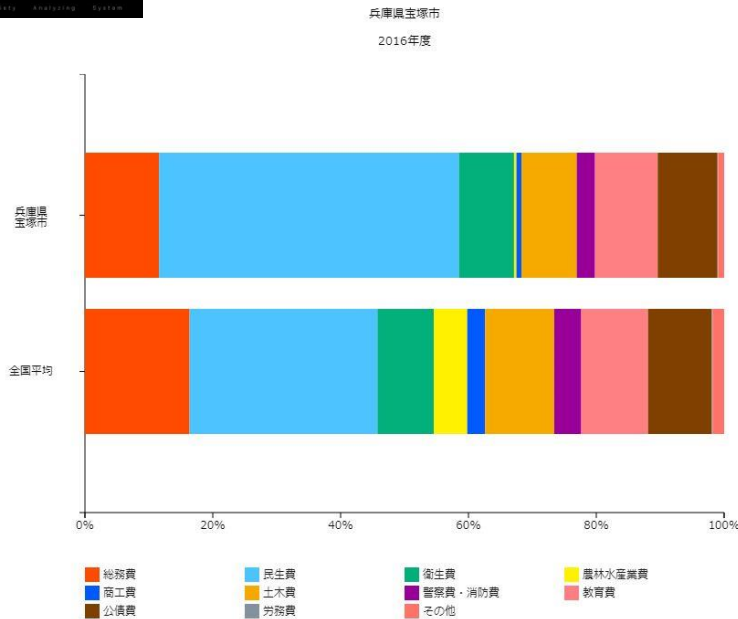
宝塚

RESAS等で把握した現状と課題①

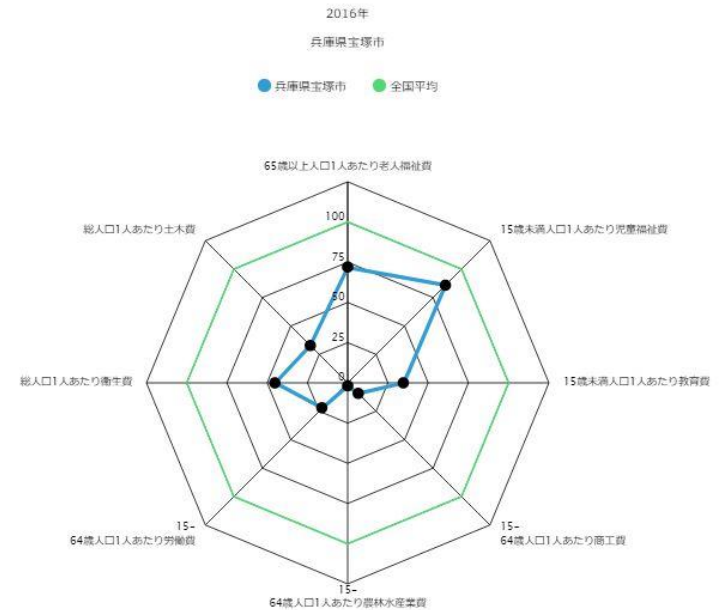
～市の予算構造～



目的別歳出決算額の比較(構成比)



目的別歳出決算額の比較(人口1人あたり水準)



○民生費の割合（46.92％）が突出している反面、商工費（0.78％）、土木費（8.65％）の割合が少なく、全国平均と比較しても、特徴的な構造となっていることが分かる。（全国平均：民生費29.39％、商工費2.79％、土木費10.81％）（2016年で比較）

○民生費の割合の高さは、全国約1700自治体のうち84位であり、全国的にも民生費割合の高い自治体であるといえる。

○人口1人あたり水準でも、商工費の低さは際立っている。（全国100に対し、宝塚市は9.38）

※民生費（高齢福祉、障害者福祉、児童福祉、生活保護など）
商工費（商業振興、観光振興など）、土木費（土木事業など）



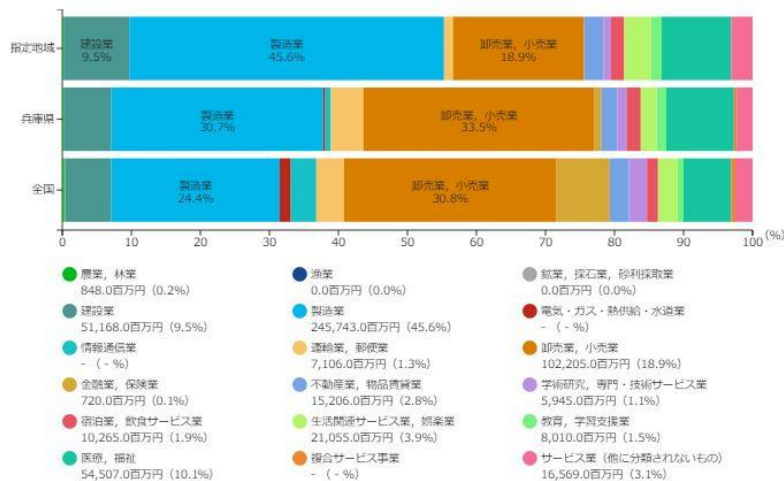
RESAS等で把握した現状と課題②

～産業構造～



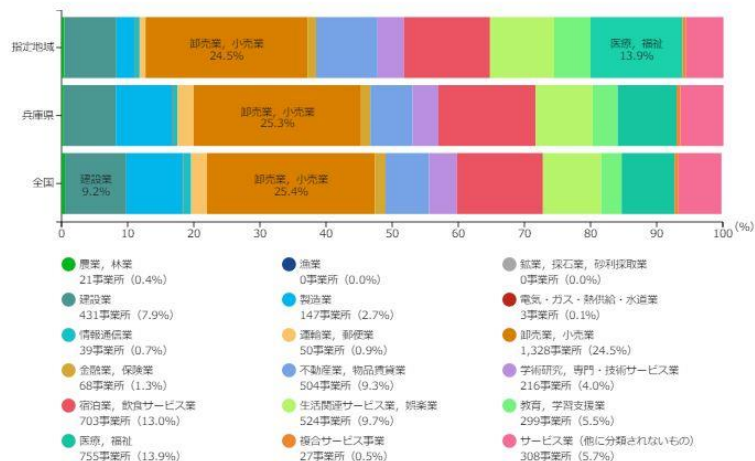
売上高(企業単位) 2016年

指定地域：兵庫県宝塚市



事業所数(事業所単位) 2016年

指定地域：兵庫県宝塚市



○宝塚市の産業構造を見ると、卸売業・小売業 24.5%、医療・福祉 13.9%と、この2つの分野の事業所数が全体の4割ほどを占める。

しかし、売上高で見ると製造業が45.6%と圧倒的に高い割合となっており、数少ない事業所である製造業が、本市の経済を牽引しているといえる。

○市域の約2/3を占める北部地域では田園風景が広がるものの、市全体での農業事業所数 (0.4%)、売上高 (0.2%) とともに割合としては少ない。

○大阪のベッドタウンとして発展してきた本市ならではの産業構造となっている。

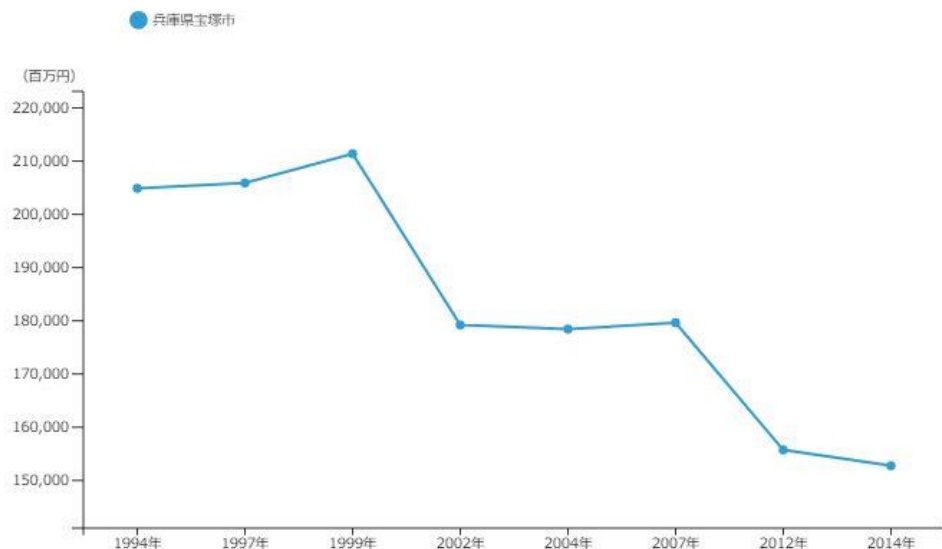
RESAS等で把握した現状と課題③

～活性化への課題～



年間商品販売額

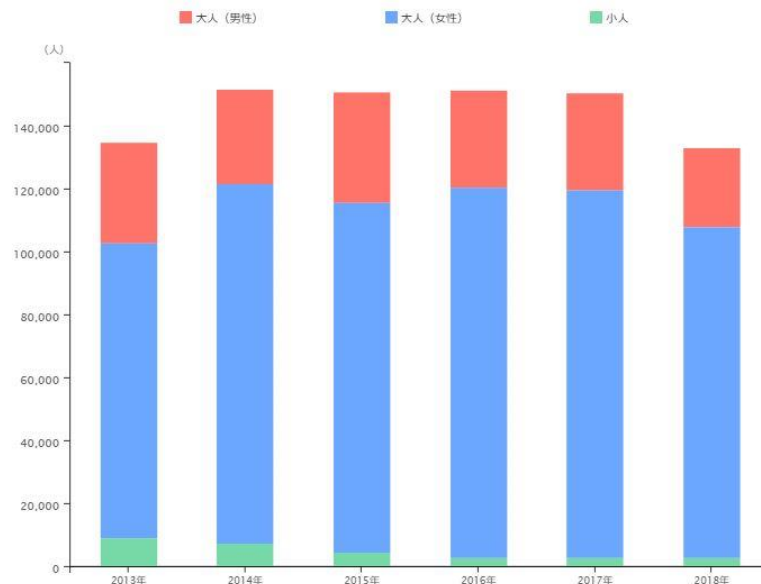
産業: すべての大分類 > すべての中分類



延べ宿泊者数（総数）の推移

兵庫県宝塚市

性別



○宝塚大劇場の観客動員数は2014年に最多を記録、2018年には120万人に達し記録を更新した。しかし、観客は、まちにあまりお金を落としていないと考えられる。

（年間商品販売額は右肩下がり：左グラフ）

○延べ宿泊者数の推移（2013年～2018年）では、女性の割合が非常に高い（右グラフ）

○ブランド総合研究所発表の「地域ブランド調査2017」では、宝塚市は、「学術芸術のまちのイメージ」が全国1位

○まちの魅力を高め、宝塚大劇場と最寄り駅との往復だけでなく、周辺地域での回遊性を持つことで、120万人の来宝者（主に女性）に市内で消費していただく必要がある。



RESAS等で把握した現状と課題④-1

～選ばれるまち～

市民アンケートより

○宝塚市に住み続けたい理由（上位5位までを抜粋）

- 1 交通の利便性が良いから37.2%
- 2 住環境が良いから35.8%
- 3 治安が良いから31.0%
- 4 自然環境が豊かで景観が美しいから29.5%
- 5 都市のイメージが良いから22.7%

宝塚市に住み続けたい理由の上位5位までに、まちの環境やイメージが大きく影響していることがわかる。

○市外転出の理由 上位5位

- 1 交通の利便性が良くないから32.1%
- 2 買い物や余暇活動に不便だから30.7%
- 3 自分や家族の通勤・通学に不便だから26.4%
- 4 医療機関や福祉施設が整っていないから17.1%
- 5 教育・子育て環境が良くないから14.3%

RESAS等で把握した現状と課題④-2

～選ばれるまち～

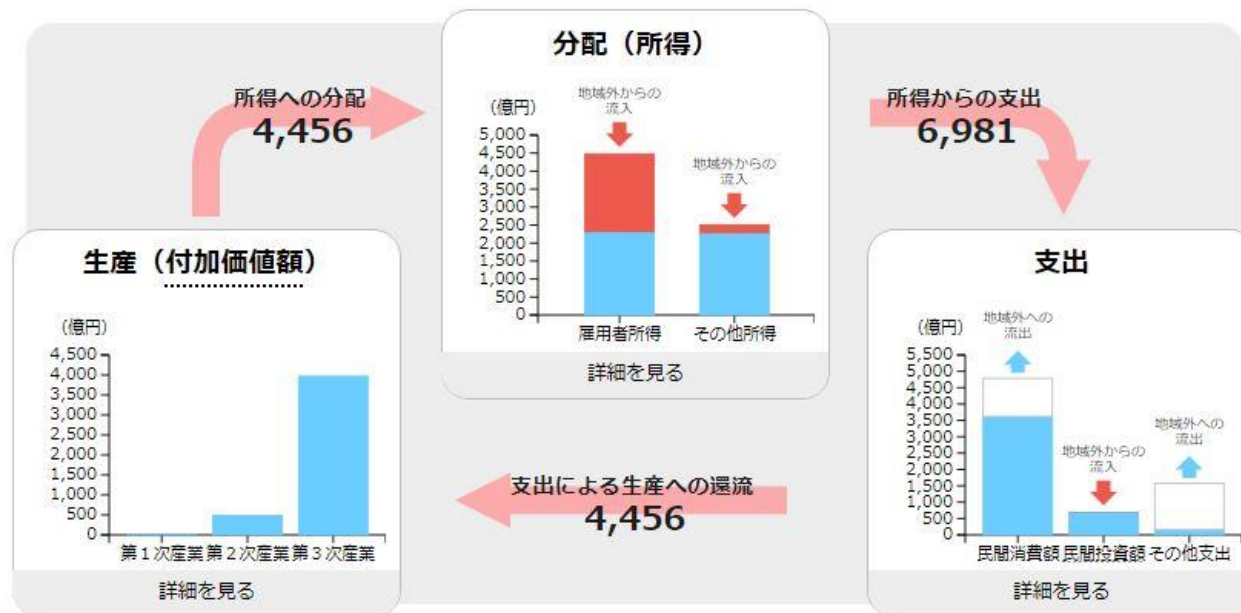


地域経済循環率
63.8%

地域経済循環図

2013年

指定地域：兵庫県宝塚市



市民アンケートの転出理由として、「買い物や余暇活動に不便」と、宝塚市の弱点が指摘される。RESASの「地域経済循環図」においても、市外の勤め先で稼ぎ、市外で買い物をしていることが明白である。

宝塚市の顔というべき場所 花のみち周辺

- 宝塚大劇場へと続く歩道、花のみち
- 付近には、宝塚市立手塚治虫記念館
- 花のみちは1985年度に改修工事、1999年に電線の地中化工事などを実施してから大規模な改修は行っておらず、老朽化が進行しているが、大規模改修の予定はない。（花のみち以上に傷んだ市道の改修が優先されている）
- 手塚治虫記念館も1994年の開館以来、リニューアルが実施出来ておらず、古い展示のまま
- 一方、2020年春には、宝塚市立文化芸術センターがオープンするとともに、宝塚ホテルが移転する



進行するプロジェクトの現状と課題

- 宝塚ファミリーランド跡地での文化芸術センターの整備（2020年春開館予定）は進むが、老朽化する花のみちや、手塚治虫記念館のリニューアルには手つかずで、以前からある観光資源の改修や、エリア全体としての魅力アップの取組にまでは至っていない
- 宝塚ホテルが宝塚大劇場北側（花のみち沿い）への移転が決定
（2020年5月開業予定）
- 「観光プロムナード構想」（1993年度策定）はあるものの、20年以上前のものであり、現在の状況に適したエリアマネジメントが不在

2020年春を機に、
花のみち周辺が大きく変わろうとしている
宝塚の地方創生が胎動
これをさらに大きなムーブメントに広げなければならない
市の一職員として何ができるか？

財源不足を補うために

花のみち周辺の改修には土木費の増額、手塚治虫記念館のリニューアルには総務費の増額が必要だが、市は財政難であり、民生費に多くの予算を割かれる現状では、**増額は不可能**

増額が見込めないなら、**ふるさと納税**で補おう！

しかし、ふるさと納税返礼品で一般的に人気の一次産品は産業構造上弱い宝塚市。（人気返礼品を大量に用意できない）

しかも、スタッフは、政策推進課でシティプロモーション担当を兼務する3名のみ（課長、係長、一般職）**実質1.5名体制！**

金・人・モノが無い中で、まちを変えられるのか？

どこで戦うべきか？

宝塚市は、大阪のベッドタウンとして発展した特性から、商工業、農業分野が弱く、市の財政においても、同様の分野が弱い。

強みとしては、宝塚歌劇に代表される、文化芸術のまちとしてのイメージが全国的に定着しており、**まちのポジショニングが明確**であること

弱みを伸ばして、弱点を平均点にすることも重要であるが、強みを伸ばして、さらに個性を際立たせる戦略が、定住人口、交流人口、そしてふるさと納税の獲得には有効ではないか？

徹底したポジショニング戦略

～マーケティング戦略～

産業構造として、宝塚市は一次産品が脆弱であり、ふるさと納税返礼品の主力とすることは難しい。

「文化・芸術のまち」とのとしてのポジショニングを意識した返礼品を充実させる戦略へ（STP）

宝塚歌劇ブルーレイ、手塚治虫マンガ作品など

ターゲットを、主に宝塚歌劇ファン、マンガファンに絞る

寄附金の指定先

- 「歌劇のまち宝塚の魅力向上に関する事業」
- 「手塚治虫記念館を生かしたまちづくりに関する事業」

寄附者は、返礼品だけでなく、寄附金の使途にもこだわることができる！

返礼品の魅力だけでなく、寄附金の使い道にもこだわるクラウドファンディング型

ふるさと納税

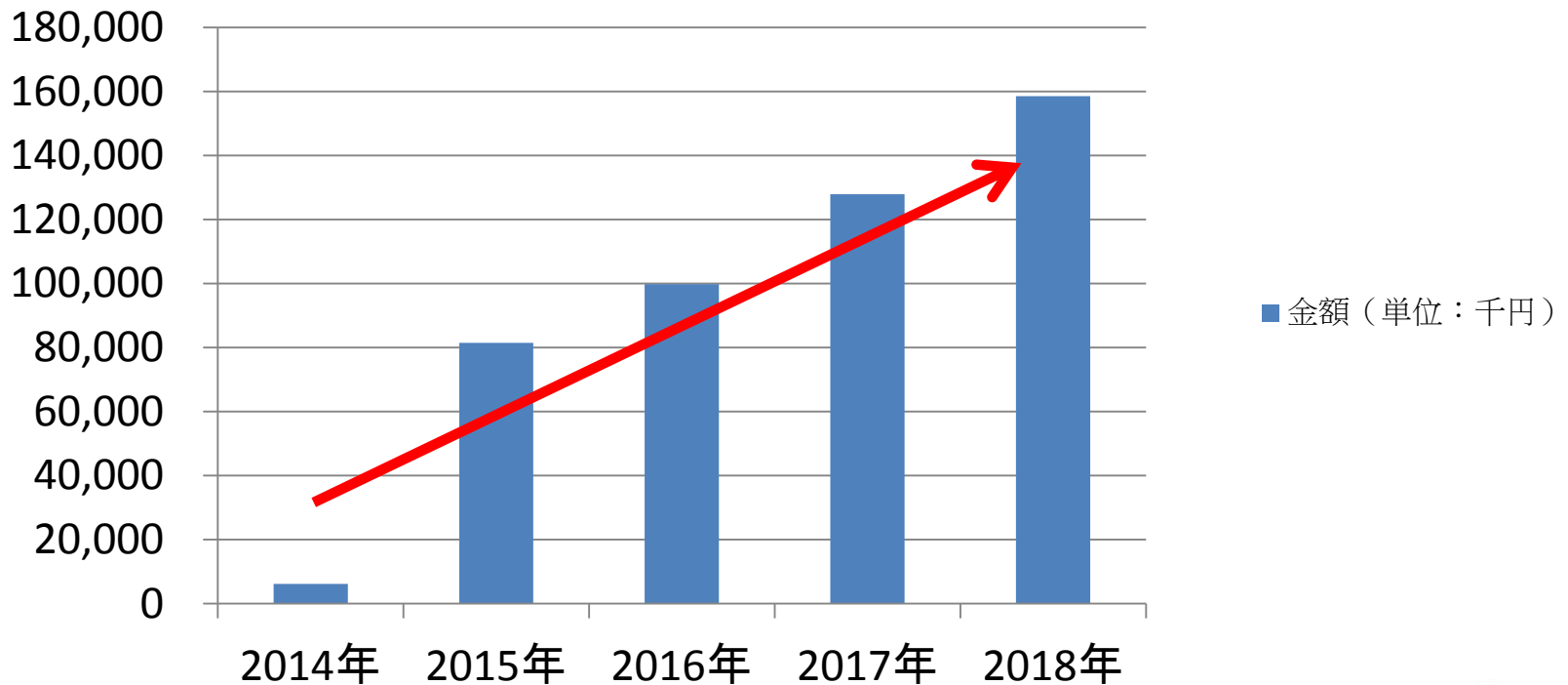
SNS（インスタグラム、ツイッター）によるプロモーションを強化することで、多数のフォロワーを獲得するとともに、高エンゲージメント率（約20%～25%）を確保

リアルタイムで効果的なプロモーションの実施

ふるさとと納税増収の実現

ふるさとと納税の大幅増収を実現！

2014年度は、**約600万円**の受け入れ額であったが、ポジショニング戦略が功を奏し、翌年の2015年度には**約14倍の約8100万円に増額**。その後も順調に受入金額を伸ばし、2018年度には、**約1億6000万円**に！



ふるさとと納税に関する現況調査結果（総務省調より）

手塚治虫記念館リニューアルへ

ひょうご地域創生交付金

ふるさと納税寄附金

市一般財源

手塚治虫記念館
リニューアル！



兵庫県が「ひょうご地域創生交付金」（1/2補助）を創設したことで、手塚治虫記念館リニューアルへの機運が高まり、予算化へつながる。（平成30年度、令和元年度の2期に分けて実施予定）補助裏にふるさと納税寄附金を充てることができた。地道な寄附金集めが功を奏した。

「歌劇のまち宝塚」への寄附金の活用

宝塚歌劇ファンからのふるさと納税寄附金が多く集まった

寄附者からのアンケートによると、花のみち周辺の整備を希望する声が非常に多い

花のみちエリアが生まれ変わるタイミングで、老朽化した花のみちを改修するチャンスであり、かつ、寄附者の想いを実現することができる

財源を確保することで、これまでは不可能であった市の事業として実現！

（平成30年度から）

さらに予想外にも、兵庫県が武庫川周辺散策空間整備事業として、武庫川河川敷公園も含めた整備に動くことになった！（事業期間：令和元年度～令和5年度（予定））

わずか1.5人体制の小さな力が、財源を集め、寄附者の熱い想いを
受け止めることで、新たなまちづくりへ

「1枚目のドミノ」を倒す役割を担うことになった！

1枚目のドミノを倒すことの効果

宝塚市シティ
プロモーション担当

ふるさと納税

ふるさと納税寄附者の共感と期待

花のみち整備事業の実現

宝塚市道路部局

地域住民
(自治会・まち協等)

兵庫県

武庫川（宝来橋～宝塚大橋）周辺散策空間整備事業へと、**想定以上の拡大**

- ・ 憩いの場づくり：武庫川右岸河川敷の環境整備を行い、良好な景観の創造
- ・ 賑わいの場づくり：観光地を周遊できるサインの整備
歩行者を重視した道路空間の整備

宝塚市の地方創生へ！